



緑の架け橋

会報第 22 号
2013 年 06 月 30 日
日中緑化基金助成事業

大河の一滴から、「緑の架け橋」へ ～第 18 回植林派遣団報告～



河北遷西県 (2013・5) 第一次事業遠



2002年11月 緑の架け橋推進センターを設立し植林プロジェクトがスタートしました。これは日中緑化交流基金の助成を得たもので、事業主催・IFCC国際友好文化センターの呼び掛けに応じて開始されたもの。

2011年度開始の新事業地「日中河北遷西県生態防護林事業」は諸般の事情で、今回がはじめての訪問となりました。これまでの砂漠地帯とは異なり山の斜面をのぼりながらの植林作業でした。

IFCC 国際友好文化センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405 TEL. 03-3268-4387 FAX. 03-3268-6079

口座：中央労働金庫市ヶ谷支店 (普)0858119 郵便：00130-9-425994

本会報は事業主催 (IFCC) の植林プロジェクト特集となります

緑の架け橋プロジェクト

中国植林緑化活動協力事業

第18回植林緑化派遣団(2013年4月5日～9日)活動報告

～ 民間『平和外交』友情の証 ～

自治労・大分県本部 佐藤義朗

○4月4日(木)事前学習および結団式、壮行会

下の写真は、2013年の事業地の模様



河北遷西県(2013.5)側柏



石嘴山市恵農区(2013.5)砂棗



吳中市太陽山開発区(2013.4)ニセアカシア

都内ホテルで、佐藤晴男団長、社民党国会議員団らが集い事前学習会および打ち合わせが行われた。

事業開始から11周年を迎える「緑の架け橋プロジェクト」の活動はこの間、派遣された団員は約200人、現地のボランティアと協働で植林した面積は、2,200ha以上に及ぶ。中国側の「砂漠を緑の大地に」という計画への事業協力と、植林事業を通じて日中間の友好と平和の「架け橋」にしたいというのが目的である。と説明を受けた。

そもそも、この植林事業は1998年、長江流域で大洪水が発生し、中国建国史上最も甚大な水害をもたらしたことに端を発する。その洪水の原因は森林伐採や土地開発等の人為的要因が大きいと世界各国から非難を受けた。

その翌年、故小渕恵三首相(当時)が訪中しその対策として、10年間で100億円の「日中緑化交流基金」設立構想を表明し、設置。その助成を受ける条件として、両国のNGO組織の関与が必要とされ、日本側は事業主催が「IFCC国際友好文化センター」推進母体が「緑の架け橋推進センター」、中国側が「中華全国青年連合会」で活動をスタートした。

その後2008年「緑の架け橋推進センター」は時限的な役割を終えたとして解散し、「IFCC国際友好文化センター」に事業を委嘱した。その後「緑の架け橋プロジェクト世話人会」を設置して現在に至る。

○4月5日(金)羽田発、北京経由で唐山へ折からのPM2.5や鳥インフルエンザが懸念される中、羽田から北京へとフライト。現地は前日の雨でスモッグがなく、事なきを得たものの、昼食の中華にはいきなり鶏が出てきた・・・。

車で移動すること3時間、北京市の東160kmに位置する唐山市に到着。それまでのどこまでも続く平野と広大な農地、あぜ道等に植林されたポプラ並木とは一変し、乾燥した山岳地帯となった。途中天津市辺りから、工場のスモッグにより高速道路の視界も悪くなり、到着後現地では、雨による水蒸気で靄がかかっていた。

この(佐藤団長 11 年間の訪中歴上初の)雨により、予定されていた夕方の植林地視察は中止となった。

夜に行われた現地の歓迎会では、中華全国青年連合会、地元青年連合会、副知事出席の下、地元の代表が中国の言葉にある「春の雨は油のように熱い」を引用し、「春」や「雨」そして日本からの植林緑化派遣団を熱烈歓迎する旨のあいさつがあった。それに対して佐藤団長は、「国家レベルでは、かつて日本の戦争による侵略や尖閣諸島問題に起因した暴動等あったが、民間レベルでは今後も友好を育み、平和を希求したい。そのためにも、友情の木を植えたい」とあいさつした。その後の歓迎会では、ホスト側が私たちを一人ひとりもてなし、友情(ユーハオ)の証、三杯の乾杯(カンペイ)で友好を共有化した。

○4月6日(土) 河北遷西県生態防護林事業 (第2期)

早朝 6 時 30 分、大きな花火の音で目覚めた。昨日と違って変わり快晴の中、ホテルを出発し植林する現地に到着するまでの間も何発も花火が鳴るので聞いてみると、今は中国の清明節(墓参り休暇)にあたり結婚式があらちちで催されているとのことであった。

現地までは昨日の雨の影響で舗装されていない林道を悪戦苦闘しなから進んだ。昨日の現地視察が中止されたことはなるほど納得できた。

遷西県での事業は、本来昨年秋に第 1 期事業とあわせて竣工式の予定だったが、日中関係の悪化により竣工式ができずに第 1 期 45ha のヒノキの植林が先行していた。今年は 48ha、来年は 64ha 合計 3 年間で 157ha の計画だ。歓迎のセレモニーと第 2 期目にあわせた記念碑の除幕式が行われ、現地の方々とヒノキを急傾斜地に植林をした。植林地は、岩山の上に申し訳程度に表土が堆積している状態で、穴を掘ると土と小岩が半々であった。



河北省唐山市遷西県での植林の様子 上・下



唐山出発→北京経由→銀川市へ

唐山市から再び車で北京へ移動し、国内線にて寧夏回族自治区の首府、銀川市に到着した。

ホテルまでの道中、砂漠の閑散とした街という私のイメージは一掃され、華やかな広告塔が立ち並び、マンションなどが団地形式で多数建設されているのには驚いた。夜に行われた現地の歓迎会では、中華全国青年連合会、地元青年連合会と交流しホテルにチェックインした。街のネオンは深夜まで消えることがなく、人々の往来も続いていた。



○4月7日(日) 石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業 (第3期)

ホテルを出発し、石嘴山市恵農区へと向かった。途中銀川市では条例で官民間問わず植林が義務付けられていることから、たくさんの人々が道路わきの空き地などに植林をする光景を見ることができた。石嘴山市に入ると、延々と乾燥地帯が続き、年間降水量が 200 ミリ弱という過酷な気象条件がもたらした緑のない茶褐色の大地が広がっていた。また、強風と黄砂(現地の人はこの程度なら砂埃と言



っていた)で視界が悪くなっていた。

恵農区での事業は、第 1 期 60ha、第 2 期 80ha、そして今年第 3 期 80ha の 3 年間で合計 220ha の計画だ。現地では歓迎のセレモニーと第 3 期の開工式が行われた。今回の第 3 期では、80ha にスナナツメニセアカシアを植林する計画だ。植林地は黄河流域の川沿いの場所だったが、穴を掘るたびに水分は

含んでいるもののパウダー状の土砂が堆積しているだけの土質で、とても黄河沿いの土地とは思えない土壌であった。折からの強風と砂埃に対応するため、防塵用のゴーグルとマスク、耳栓を駆使しながら、植林活動を終えた。第2期の植林状況の視察・確認は昨年秋の約30年ぶりとなる黄河の氾濫の影響で近くまで行けずに、遠くから眺めるだけとなった。

○4月8日(月) 吳忠市太陽山開発区生態緑化モデル林事業(第3期)



ホテルを出発し吳忠市太陽山へ向かった。太陽山開発区は石嘴山市恵農区よりも深刻な砂漠地帯である。植林地に近づくとつれ、風力発電用の風車と、太陽光パネルが姿を現した。延々と続く砂漠地帯の中、約20kmの間、道路の両側に整然と並べられたその光景に圧倒された。これらの施設は、砂漠に新しい「まち」をつくり住民を移住させる計画にあわせ整備され、それらを取り囲むように植林事業は行われているとのことだった。

太陽山での事業は、第1期70ha、第2期70ha、そして今年第3期70haの3年間で合計210haの計画だ。現地では歓迎のセレモニーと第3期の開工式が行われた。今回の第3期では、70haにニセアカシアを植林する計画だ。植林地は、恵農区よりも水分が少ないパウダー状の土砂であり、植林の際には穴に埋め戻す量よりも風で飛ばされる量の方が多いのではと錯覚するほどであった。植林後、2期目の植林状況視察を行った。目に見える成長度ではなかったものの、しっかりと大地に根付いており、近くではヤナギ科の苗の植林も行われていた。夕方、寧夏回族自治区に別れを告げ北京へと向かった。

○4月9日(火) 北京そして帰国

翌日の北京は風の影響もあり、スモッグはなく空は晴れ渡り、空気も澄み渡っていた。おそらくPM2.5も飛散していなかっただろう(笑)。慢性的な交通渋滞の北京を後にした。

この植林事業は、砂漠を緑化し、植生の回復、水土流出防止の効果を生み、健全な生態系への回復を目的としている。しかし、植林自体のもたらす効果だけではなく、中国の皆さんと協働して木を植え、その木を育むことは、同時に日中両国の友好と平和を構築することだと認識した。

「日本の戦争による侵略」や「尖閣諸島問題に起因した暴動」等さまざまな問題が顕在化する日中関係にあって、現地の植林で中国の皆さんと流す汗には、国家レベルの外交は無関係だ。この植林は、まさに民間レベルでの友好的な「平和外交」だといえる。

最後に、訪中の間、ダウンしながらもお世話くださった事務局の篠原さんに感謝しつつ。「緑の架け橋」を通じて、今後も民間レベルの外交をしながら、友情(ユーハオ)の証、三杯の乾杯(カンペイ)をしたいと強く思う。(2012年5月 記)

プロジェクト名	事業実施期間	植林面積
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト(済)	2002年度～2004年度	330ha
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業(済)	2004年度～2006年度	290ha
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林事業(済)	2005年度～2007年度	300ha
日中青年銀川生態緑化林事業(済)	2007年度～2009年度	180ha
日中青年石嘴山生態緑化林事業(済)	2007年度～2009年度	250ha
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業(済)	2008年度～2010年度	300ha
寧夏吳忠市太陽山開発区日中青年生態緑化モデル林事業(継)	2010年度～2012年度	210ha
日中青年石嘴山市恵農区生態緑化モデル林事業(継)	2010年度～2012年度	220ha
日中青年河北遷西県生態防護林(継)	2011年度～2013年度	157ha

第18回植林緑化派遣団参加者

佐藤晴男	7°D イク代表
佐藤義朗	大分・自治労
篠原尚生	IFCC事務局

